

東南村山からおいしさを極める！

おいしい米づくり情報

第 1 号 播種準備 編

発行：令和6年3月19日

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト村山地域本部
村山総合支庁農業技術普及課

(TEL:023-621-8295)

気候変動に負けない米づくりの第一歩は、**健苗育成と土づくり**！

各作業のポイントを確認し、令和6年産の稲作をスタートしましょう。
令和5年産種子の休眠は深い！浸種開始の温度と、浸種期間は必ず確認して、発芽不良を防止！

■ 田植え日から逆算して育苗計画を立てましょう

	播種量 (乾粳g)	必要箱数 (箱/10a)	育苗 日数	作業スケジュール			
				塩水選	浸種	播種	田植え
中苗	80~120	30	30~35	3/28	3/29~4/9	4/10~15	5/15~20
稚苗	150~180	25	20~25	4/7	4/8~19	4/20~25	

- ・育苗期間が長くなると、苗が老化し、活着不良や初期生育不良の原因になります。
- ・**移植日から逆算**し、計画的に塩水選や播種作業を行いましょう。
- ・播種量が増えると、育苗後期に苗質が低下(**老化**)しやすいことから、育苗期間は短くしましょう。

■ 播種準備のポイント ~出芽を揃えるため、種子浸漬は丁寧に~

(1) 塩水選

- ・充実した種粳を得るための重要な作業です。
決められた比重を守り、充実した種子を選別しましょう。
- ・塩水選を終えた粳はきれいな水で洗い、よく水を切りましょう。

【塩水を作る目安】

	比重	水10ℓ 当たり 食塩の量(kg)
うるち	1.13	2.1
もち	1.08	1.3

(2) 種子消毒

【薬剤処理】

- ・必ず、使用方法（希釈倍率、使用時期、使用方法等）を遵守しましょう。
- ・**薬液の温度が低いと効果が劣る**場合があります。
必ず **10~15℃の水温を確保**しましょう。
- ・生物農薬は化学合成農薬と使用時期が異なるのでラベルをよく確認してください。



品種の取り違いに注意!

【温湯消毒】(うるち品種のみ)

- ・200ℓのお湯に10kgの乾燥種籾が目安です。
- ・温湯種子消毒は専用機器を使用し、「**58℃20分**」または「**60℃15分**」で実施しましょう。
- ・温湯消毒後は速やかに浸種しましょう。
- ・すぐに浸種できない場合は、脱水後通風乾燥し、籾水分15%まで低下させ、清潔な場所で保管して下さい。

水温確認のため、温度計を設置しよう！

(3) 浸種

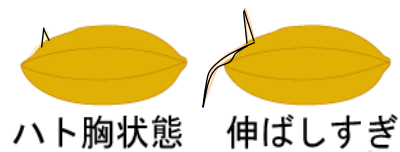
- ・浸種は、**水温は10～15℃**、**積算水温100～120℃**が目安です。
- ・浸種開始時の**水温が低すぎると(10℃以下)発芽率が低下する恐れがあるため、浸種初日は水温10℃以上を確保**しましょう。
- ・**昨年の高温の影響で例年よりも種子の休眠が深い可能性があるため、浸種開始時の水温に特に注意が必要です。種子消毒や最初の浸種温度は、必ず10℃以上で実施**しましょう。
- ・水温が**15℃を超えればか苗が発生しやすくなる**ため、水温が上がりすぎないようにしましょう。
- ・薬剤消毒をした場合は、浸種初日から**3日間は水交換せず、その後2～3日おきの水交換**をしましょう。

【浸種時間の目安】

品種	積算水温	浸漬温度と日数
つや姫、雪若丸、はえぬき、コシヒカリ、ひとめぼれ、あきたこまち	120℃以上	10℃×12日間 12℃×10日間
ササニシキ、ヒメノモチ、こゆきもち	100℃以上	10℃×10日間 12℃×8日間

(4) 催芽

- ・催芽は30～32℃で20時間を目安に、ハト胸状態になったのを確認して播種作業を行いましょう。



■土づくり ～気候変動に強い米づくりは土づくりから～

- ・堆肥や土壌改良資材(ようりん、ケイカル)を投入し、初期茎数の確保、品質・食味・収量の安定化を図りましょう。施用量の目安は、**ようりんは30kg/10a**、**ケイカルは120kg/10a**程度です。
- ・**作土深15cm**を目標に耕起を行い(チゼルプラウ等を使用)、①**根域の拡大と根の活力維持**、②**地力窒素の発現と養分保持・供給力の増強**を狙いましょう。

今年も管内の稲作情報を、LINEに掲載します！
QRコードを読み込んで、グループ登録をして下さい。



STOP! 農作業事故! ～作業前に機械の点検を実施し、農作業事故を無くしましょう～